

# 運営管理に満足 少人数研修で高評価



## ～国別研修・青年研修の質問票分析結果～

平成21年度から平成24年度までの4年間にJICA中国が実施した国別研修、青年研修において、研修員に対して研修終了時に行った質問票の回答分布を分析し、別途実施した課題別研修の研修員に対するアンケート結果と比較しましたので、ご紹介します。

国別研修は、相手国の個別の要請に基づき実施される研修で、JICAの実施する技術協力プロジェクト(★)の関係者(カウンターパート)に対する研修、1年以上の受入れを行い主に大学で行う長期研修も含まれます。

青年研修は、途上国の将来を担う青年層(原則20～35歳)を対象とし、日本の基本的技術経験の理解を目的とする研修です。課題別研修は、日本側で開発途上国側の課題を想定して研修計画を策定した上で、開発途上国側に実施を提案し、各国の要請に応じて、複数ヶ国から複数の研修員を受け入れる研修です。

## ■研修に対する評価の比較

### 全般的に評価の高い課題別研修、業務活用可能性について、評価の高い青年研修、国別研修

図1は、国別研修、青年研修、課題別研修の3つの受入形態間で比較可能な5項目(研修期間、講師の講義、研修資料の質、研修の運営管理、研修結果の業務活用性)に対する研修員の評価の傾向を示したものです。

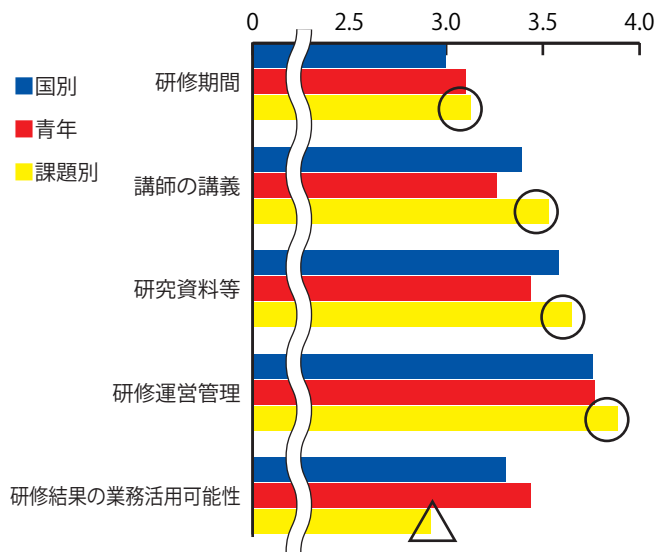
最後の「研修結果の業務活用性」を除く全ての項目で、課題別研修の評価が最も高いことが判明しました。課題別研修では、研修実施機関等と入念な準備を行って技術研修内容を準備していることが、研修員からのより高い評価に繋がっていると推察されます。

課題別研修において、「研修結果の業務活用性」の評価が低くなっているのは、提供される研修内容がある程度汎用性を持たせた内容となっていることが影響していると考えられます。課題別研修の参加者は、国や所属、役職、権能等に多様性があり、抱える課題も様々。研修が課題解決に直結した内容になりにくい場合もあり、それが課題別研修における「業務活用性」の評価点の

国別研修は24案件(対象期間の全案件の3割に相当)、青年研修は12件(対象期間の全案件の6割弱に相当)の質問票集計表(案件別に個々の研修員のアンケートが取り纏められたもの)を対象としました。

(国別研修176名、青年研修183名 計359名)

図1 研修に対する評価、3研修形態の比較(4点満点)



低さに表れていると考えられます。また、課題分析等をしっかりやった上でアクションプラン等を策定するため、課題別研修の研修員はより実現可能性に対して、冷静かつ厳しい見方を習得したため、とも推察されます。

逆に技術協力プロジェクト<sup>★</sup>の一投入として実施されているものも多い国別研修では、業務活用性の評価が高くなっています。

何れにせよ、両者の長所を組み合わせしていく工夫が、今後より必要です。

★技術協力プロジェクトは、JICAの専門家の派遣、研修員の受入れ、機材の供与という3つの協力手段(協力ツール)を組み合わせ、一つのプロジェクトとして一定の期間に実施される事業です。

# JICA研修員の「アンケート結果」 運営管理に満足 少人数研修で高評価

## ～国別研修・青年研修の質問票分析結果～

### ■「研修コースの評価」「それ以外」の比較

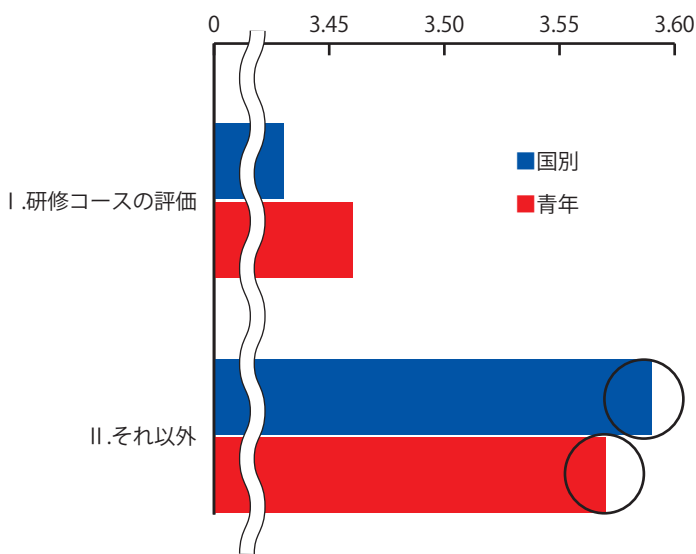
#### 「それ以外」(JICAが実施する事項や日本の印象)に高評価

「研修コースの評価」は、「設定された到達目標とニーズの適合について」「研修期間について」「講師の講義プレゼンテーションについて」「研修資料・施設等の評価について」「研修運営管理について」「期待充足度」「到達目標達成度」に関する設問で構成されており、文字通り研修の構成、内容に関する評価といえます。

「それ以外」は「JICAのブリーフィング」「ジェネラルオリエンテーション」などの来日直後に技術的な研修が開始される前に行う諸手続きや概要説明や、「日本の印象」から構成されています。

両者の評価の平均を見ると、図2のように、国別研修、青年研修ともに「それ以外」の評価の方が「研修コース」の評価よりも相対的に高いことが確認されました。

図2 研修コース評価全体(4点満点)



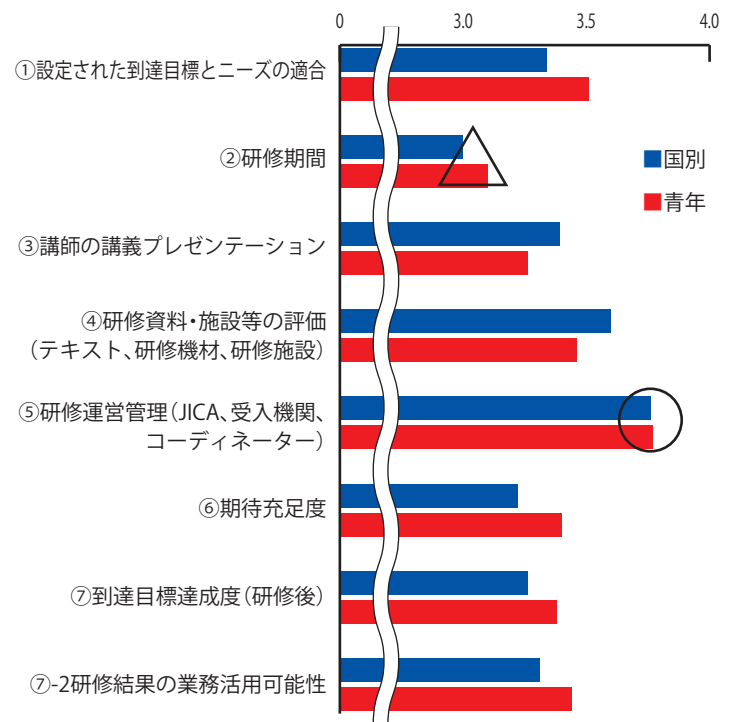
### ■「研修コースの評価」

#### 研修の運営管理に対し高評価

図3は、「研修コースの評価」を構成する7つの質問に対する評価点を示しています。国別研修、青年研修ともに「研修運営管理」の評価が最も高く、「研修期間に対する評価」が最も相対的に低いことが確認されました。

「研修運営管理」は、更にJICA、受入機関、コーディネーター(研修監理員)の3つに質問が分かれています。が、コーディネーター(研修監理員)に対する評価は国別研修が3.84、青年研修が3.85と全項目中最も評価が高くなっています。研修の全行程に研修員と同行し通訳のみならず、滞在中にきめ細かい支援を行っている研修監理員に対する評価が、全ての評価項目の中で最も高いというのは、JICAの研修の特徴を示すものといえます。

図3 「研修コースの評価」の内訳(4点満点)





# JICA研修員の「アンケート結果」 運営管理に満足 少人数研修で高評価

～国別研修・青年研修の質問票分析結果～

## ■国別研修の回答から

### 「少人数、長めの研修」に高評価

表3は国別研修の各質問項目に対する回答を、3つの研修属性(人数、滞在日数、研修の内容構成)別に、それぞれ「6人以下、7人以上」「18日以下、19日以上」、(講義等の日数の構成比が)「50%未満、50%以上」のセグメントに分けたものです。

これによると、「少な目(6人以下)の人数で、長め(19日以上)の研修」を行う方が、研修員の評価は高くなる、ということが分かります。

図3 設問別・セグメント間平均比較(国別研修)

属性区分	カテゴリ	人数		日数		研修構成(講義等)		
		6人以下	7人以上	18日以下	19日以上	18日以下	19日以上	
I 研修 コース 評価	①設定された到達目標とニーズの適合	3.43	3.30	3.24	3.39	3.38	3.29	
	②研修期間	3.00	3.00	2.71	3.15	3.09	2.86	
	③講師の講義プレゼンテーション	3.49	3.34	3.36	3.41	3.46	3.30	
	④研修資料・施設等の評価	テキスト	3.56	3.45	3.46	3.51	3.41	3.61
		研修機材	3.74	3.61	3.52	3.72	3.61	3.71
		研修施設	3.77	3.56	3.56	3.68	3.59	3.72
	⑤研修運営管理	JICA	3.78	3.75	3.66	3.81	3.74	3.79
		受入機関	3.85	3.62	3.59	3.73	3.64	3.76
		コーディネータ	3.93	3.80	3.80	3.86	3.80	3.90
	⑥期待充足度	3.18	3.24	3.02	3.31	3.30	3.09	
	⑦到達目標達成度	研修後	3.19	3.29	3.16	3.29	3.33	3.18
		研修結果の業務活用可能性	3.38	3.28	3.17	3.36	3.42	3.18
	研修コース評価の設問平均		3.43					
II その他	①JICAのプリーフィング評価	3.70	3.60	3.59	3.66	3.68	3.58	
	②ジェネラルオリエンテーション	3.43	3.57	3.47	3.54	3.58	3.42	
	③日本の印象	3.54	3.63	3.57	3.61	3.60	3.59	
その他の設問平均		3.59						
全設問平均		3.45						
評価が高かった個数		10	4	0	15	9	6	

